**専門職としてはたらくことについて**

社会福祉法人Mネット東遠

 ○伊東守弘・原田正美

**要旨**

２年目を終えようとしている今、一度自身を振り返ってみる。「専門職として」どうであったか、今後への思い等を再確認し、今後に活かしていく。稚拙な内容も多いと思うが、正直に記していく。

**１ 目的**

振り返ることで自己覚知を深め、今後に活かしていく。

**２ きっかけ**

精神保健福祉士を職として選ぶきっかけとなったのは、知人が精神疾患を理由に所属団体をやめたことだった。病名をインターネットで調べている内にこの資格を初めて知り、工学関係の仕事を辞めて通信で資格取得を目指した。

　当法人に就職し、パートの方が退職された所へ配置される。その場に利用者はおらず、業務の空き時間に利用者のいる作業場に入るかたち。その限られた時間の中で関わりをもたせて頂き、安心して接して頂けるように心掛けた。肉体労働であり、１日があっという間に終わる。専門職としてほとんど深く考えることもなく１年が過ぎていた。

**３ 本年度（２年目）**

グループホームへ異動。上司と一緒に、自身の言動に対して振り返りをしていただけるようになり、言葉の大切さを意識するようになる。

　利用者の言葉はもちろん、提出する書類の言葉まで。自身がそのようなつもりがなくても、相手に違ったように捉えられる可能性があることを、考えるようになった。

また、利用者が困っていること、こうしてほしいという要望に安易にやってしまおうとしていたことに気付かされた。言い方を変えると“やってあげよう”になっていたのかもしれない。積極的に動くことで、利用者の自己決定の邪魔をしてはいけない、と思うようになった。

**４ 専門職として**

私の思う専門職としてはたらくこととは、一言で言うと、「個を大事すること」である。その人らしさを重視し、関わらせていただきながら関係をつくることである、と今はそう考える。例えば、その日の様子を伺う際に、「今日はどうでした？」と尋ねると、話し易い方もいれば、「どう」って？と質問が曖昧過ぎて答えられない方もいる。こうした場面で、とくに言葉において個別の対応の重要さを感じた。

専門職を意識して働き続けるための自己研鑽の一つとして、こうして発表の場に出たり、研修に参加したりして、研修内容はもちろん他の専門職の方の考えを参考にしていくことが大切だと感じている。ひとりで考える、あるいはある一人の他人の意見のみを参考にしていては、偏った見方になりがちで、多角的な捉え方ができないのではないかと思うことがある。それは実習時から、他人と振り返りを実施する際に感じていた。

発表では、AさんBさんの2人の事例を通して報告する。なお、論文発表に際して本人たちの了解は得ている。

**５ まとめ**

今回の発表にあたり、文献等は参考にしていない。専門職としてはたらいて２年目の、自身の正直な思いを表現したかったからである。もしかすると、経験豊富な方からしたら非常に内容の薄い発表になったのかもしれないが、未熟なら未熟なりに発言をし、後に振り返りをしたときに、成長の糧になれば幸いであると考える。

　何がわかっていないのかも分かっていないような状況であるが、研鑽に励んでいく必要があると感じる。